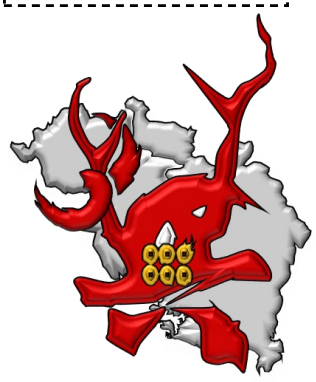
月刊 さぶろく魂

発行所
第３６普通科連隊総務室
〒664－0012
兵庫県伊丹市緑ヶ丘
7－1－1－2
電話（072）782－0001
内線（4103）



1面　第4次基礎となる部隊の訓練検閲、総合戦闘射撃
2面　レンジャー帰還式、師団狙撃集合教育

重迫中隊・通信小隊 衛生小隊の訓練検閲

重迫撃砲中隊長　山本３佐

要望事項「第一線を思いやれ」

通信小隊長　上別府３尉

要望事項「必通」

衛生小隊長　三浦３尉

要望事項「救命ドクトリンの追求」
※　ドクトリン・・・基本的原則、教義

補給小隊長　深井３尉

要望事項「先行的に兵站支援せよ」
「警戒を怠るな」

補給小隊の練度判定も

連隊は、11月24日～25日及び27日～29日（重迫撃砲中隊のみ12月4日に実弾射撃検閲）までの間、伊丹駐屯地、久代訓練場、長尾山演習場及びあいば野演習場において、第４次基礎となる部隊の訓練検閲を実施した。

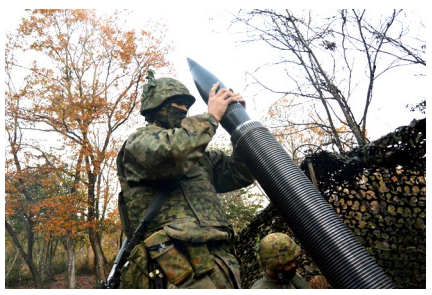
受閲部隊は、重迫撃砲中隊、通信小隊及び衛生小隊で、「陣地攻撃における中隊（小隊）の行動」を検閲課目として日頃の訓練の成果を評価判定するとともに、その進歩向上を促した。

また、補給小隊の練度判定を実施して、練度向上を促した。

各中隊（小隊）は、11月24日隊容検査後に今年度、連隊が統制する訓練課目（小銃射撃、迫撃砲射撃準備、第一線救護、目測等）を実施して、各種戦闘戦技の練度確認を行った。翌25日は、各中隊長（小隊長）計画で、任務遂行のための最終的な準備、ミッションリハーサル等を実施した。

27日～29日は、あいば野演習場へ前進し、夜間における車両行進を実施、隊形と速度を維持しつつ、整斉と行進を終えた。その後、集結地を占領し、各中隊（小隊）毎、第一線陣地に対する攻撃の行動を実施し、任務を完遂した。延べ６日間にわたる状況下において、各人が任務完遂のため努力し、各中隊長（小隊長）の要望事項の気概を強く持ち、重大な事故もなく、無事に訓練検閲の状況を終えた。

戦技の練度確認（小銃射撃）

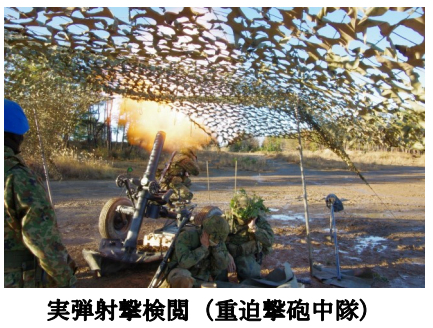


攻撃準備射撃（重迫撃砲中隊）

「必通」の気概で有線構成（通信小隊）

負傷隊員を救護所へ（衛生小隊）

弾薬補給準備（補給小隊）



実弾射撃検閲（重迫撃砲中隊）

恐るべし！重迫中隊の必中射撃
師団ナンバーワンの実力発揮!!

12月4日に実施された重迫撃砲中隊の実弾射撃検閲で、第２小隊の転移射は、有効圏内に100％で弾着した。極めて高い射撃精度を示し、師団射撃競技会を４連覇中の実力を遺憾なく発揮した。

総合戦闘射撃

81迫競技会 ２中V

連隊は、11月30日～12月5日までの間、あいば野演習場において、「方面統制総合戦闘射撃」を実施した。各級指揮官の射撃指揮、戦車・特科部隊との協同連携等を演練して、諸職種部隊の総合された火力発揮能力の向上を図った。

11月30日には「連隊81㎜迫撃砲戦闘射撃競技会」が行われ、第２中隊が優勝、第５中隊が準優勝となった。

優勝した第２中隊の迫撃砲小隊

「迫撃砲優秀中隊」の顕彰板を獲得した第２中隊

小銃小隊

１２０mm迫撃砲

０１式軽対戦車誘導弾

個人携帯対戦車弾

レンジャー帰還式 16名が堂々凱旋

レンジャー教育隊は、11月27日最終想定を終え伊丹駐屯地に帰隊。帰還式を実施し、新たな16名のレンジャー隊員が誕生した。

総潜入距離 約150km

極限の空腹と猛烈な睡魔の中 襲撃と長距離離脱！

鬼助教の目にも涙

家族からの手紙

レンジャー教育隊は、第9想定（最終想定）の出発にあたり、レンジャー学生の家族・仲間からの激励の手紙を手渡し、最後の任務に立ち向かう気概を改めて強く持たせた。過酷を極める行動訓練に歯を食いしばって耐えてきた学生もこの時ばかりは、あふれる涙をこらえることが出来なかった。

家族・仲間からの手紙

敵施設の襲撃

最終想定の潜入は、琵琶湖の横断から始まった。夜を徹してボートを漕ぎ、琵琶湖横断後は滋賀県の比良山系の勾配のきつい山地を潜入。最高峰・武奈ヶ岳を経由し、途中の阿弥陀山で当初の破壊任務を実施した。その後あいば野演習場に拠点を占領し、敵施設の襲撃任務を成功させた。

長時間に及ぶ山地潜入

壮絶！長距離離脱

襲撃後は、安全な地域まで隔離するため、長距離の離脱を開始。ここまでくると、足を前に出すのが精一杯で疲労と空腹は極限に達し、猛烈な睡魔が学生を襲う。地図判読もままならず、助教から烈火のごとく檄を浴びせられ、地図に目を落とす・・・。

極限の疲労の中、長距離離脱

やがて離脱が完了。5時44分、主任教官の「状況終了！」の声に学生は、状況を飲み込めず、腰が抜けたように呆然と立ち尽くした。ついに第51期レンジャーの長い戦いが終わった瞬間だった。

涙の帰還式 皆が泣いた

11月27日9時50分、第3音楽隊の演奏の下、伊丹駐屯地正門から大レンジャー旗を先頭に学生長・レンジャー大坪以下16名の学生が行進。駐屯地各部隊が花道を作る中、感動の凱旋となった。

グラウンドでの帰還式では、連隊長・伊藤1佐から、学生一人一人に対しレンジャーき章が首に掛けられた。学生をはじめ、参列した各中隊、教官・助教、そして連隊長の目にも光るものがあった。

素養試験のようす（伊丹駐屯地、青野ヶ原演習場）

資格検査で潜入する隊員

山猫は眠らない

スナイパーを育成せよ！ 師団「狙撃」集合教育を連隊が担任

連隊は、師団「狙撃」集合教育の担任となり、準備訓練を開始。12月より被教育者の素養試験を実施した。合格者は来年1月からの集合教育で、潜入技術、距離判定、目標発見識別等の戦技訓練及び射撃訓練を重ね、狙撃手としての練度向上に努める。